日本共産党埼玉県議団ほっとＮＥＷＳ

ＮＯ．３３

２０１１年１２月　２０日　日本共産党埼玉県議団

患者の母たちが涙で訴え「センターの存続を！」

小児医療センター移転問題説明会で

１２月１０日の岩槻区の説明会に引き続き、１７日には県立小児医療センター隣接の岩槻特別支援学校体育館でセンターのさいたま新都心移転説明会が開かれ、蓮田市などから約１５５人が参加しました。

はじめに埼玉県の担当者から移転計画や周辺の医療整備状況について説明後、質疑が行われました。

新都心は車で２時間かかる・・・

説明会には、患者の母たちが多数参加していました。「新都心までは渋滞のため２時間かかった。子どもの命を保障できるのか？」「センターから５分の場所に引っ越してきた。センター存続をもとめます」など、涙ながらの訴えが続きました。県病院局は、患者の利便性については今後検討すると繰り返し、患者家族へ独自の説明会を約束しました。

「センターは地元の小児救急に欠かせない病院」

県はセンターは高度医療病院だと説明しましたが、実際は小児救急の２次（入院が必要な患者）や１次（紹介状のない軽度な患者）を同センターが受けていることは地元では、知られています。センターは今も小児救急でかけがえのない役割を果たしているとして、存続してほしいという意見がつぎつぎだされました。これに対して、県は新都心で日赤病院とともに県全体の医療課題を解決すると繰り返し、参加者全体に怒りの声がひろがりました。

新都心はさいたま赤十字病院中心に整備を

さいたま新都心の方は赤十字病院を中心に周産期母子医療センターを整備すべきだという意見もだされました。７００万人も県民がいるのだから周産期センターも小児医療センターも県内にもっと建設すべきだという意見も出されました。

説明会は多数の存続意見のため、１時間延長されましたが、次回の開催を求める声が相次ぎました。

存続を求める蓮田市民のデモに約１００人が参加

説明会に先立ってセンターの現地存続を求めるデモが行われ、蓮田市や近隣から１００人が参加しました。ＪＲ蓮田駅前に８時に集合、集会後センターまでの２キロを歩きました。